

関西プライダル マネージャー

辻井 正人さん

masato tsujii



プライダル業界に14年従事、時代とともに変化する結婚事情を常に熟知するプロフェッショナル。結婚希望者はもちろん、その保護者にも親身にサポートする専任アドバイザーとして信頼を得ています

「親の結婚観を 子どもに押し付けたら まともまるものも ダメになります！」

**子どもが望む結婚を
認めてあげることが大切**

それではスムーズに進まない、親子婚活とは？「親御さんの望む結婚と、お子さんの望む結婚の条件がみ合っていないことですね」と、辻井さん。

「結婚しても、県内に住まなければダメ」「大卒でなければ反対」など、条件が厳しいのは意外に親の方。「お子さんはある程度ゆとりを持った条件で結婚相手を探しているのに、親御さんが自分の結婚観を押し付けていたら、まともまる縁談もまともりませんよ」と、辻井さんは少し厳しく話します。

また「子どもに遠慮して『結婚』という言葉を日常で使わなかったり、『いつまでも家にいいいよ』など、甘い誘惑も控えた方がいいですね」と笑いながら語る辻井さん。

さらに、親も子どもも、現在の結婚事情を把握しておくことが成功する、親子婚活の必要条件だとか。「結婚希望者やその親御さんを対象にした婚活セミナーに参加して、最新の結婚情報を押さえると、活動が確でスムーズなものに」

第三者に婚活状況を客観的にアドバイスしてもらうには個別相談が最適。「婚活がうまく進まない場合は、活動内容が間違っているから。一度相談所のプロにその動き方を判定してもらおうといいかもしれません」

**絆（きずな）が強ければ
成功する、親子婚活**

「子どもの代わりに結婚情報を収集する。和歌山の親御さんは思い立ったら行動する方が多いですね」と、大阪の老舗結婚相談所「関西プライダル」で多くのカップルを結び付けてきた辻井正人マネージャー。今年の4月にオープンしたJR和歌山駅前店には、予約せずに飛び込みで訪れる相談者が多いそう。「子どもに内緒で…」と来店される方がほとんどです」

和歌山店に訪れる結婚希望者は20代後半から40代と、大阪店に比べて幅広い年齢層。「大阪の場合はキャリアを積んだ30代からの結婚希望者が多く、本人が相談に訪れます。和歌山は20代後半とまだまだお若いのに、心配される親御さんが単独で来店されます」

「また、親が結婚相談所に行くことに『勝手にそんなことして！』と子どもが怒って相談所に足を運ばなくなる大阪に対して、和歌山は『親がそこまで心配してくれるならせつかくだから』と、後日親子で一緒に相談所に訪れる場合が少なくありません。」

「和歌山の結婚対象者は、親御さんの意見を尊重する方が多いです。当社が主催するお見合いパーティーでも、親御さんが黙って申し込んだのを後から知っても、そのまま素直に参加します。自分で動きたいけれど、きつかけがなくて動けなかったのかもかもしれません」

親がリードし、子どもがそれに従う。親から見れば理想的な、親子婚活ですが、それを可能にするには？「まずは子どもの結婚観を知ること。相手に求める条件やタイプなど子どもと話し合ったことはありますか。知らないうちに、自分の結婚観を子どもに押し付けていませんか」